

BITOWA

びとわ

TEAM BITOWA

ちむびとわ

有限会社遠藤正商店
株式会社小沼漆器店
株式会社関美工業
有限会社マツモト工芸

福島県会津若松市金川町1-14
電話 / 024212311566
FAX / 024212311562
URL / <http://www.bitowa-from-ainu.jp>



次世代に伝えるモノづくりの心

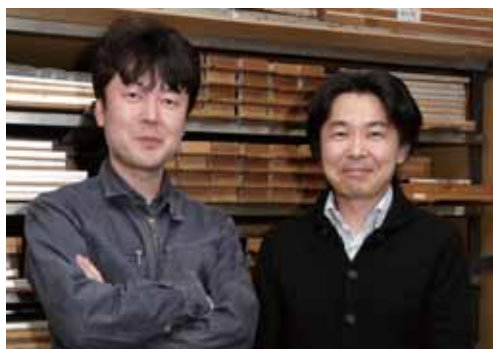
会津塗の常識を覆すモダンなデザインで、世界の注目を集める漆器があります。〈BITOWA〉は、「美とは「美と和」のふたつの意味をもち、現代の美意識を反映したデザインで、会津塗の可能性を拡げているブランドです。」

「400年以上の歴史をもつ会津塗は、明治時代のパリ万博にも出品されていたんです。そのパリで開催されている『メゾン・エ・オブ・ジエ』にて、伝統あるクラフトマンシップを形にしたジャパンブランドとして、2006年にデビューしました。」ブランド設立者の一人である遠藤さんに、〈BITOWA〉誕生についてお聞きしました。「どこの伝統工芸でも抱えている問題として、やはり後継者不足

はあります。それぞれの工程で熟練の技が求められる会津の漆器づくり。技術もそうですが、どういった製品にしたいかのやりとりも含めて、一人前になるまで、私は15年はかかりましたね」と時絵師の本田さんも語るように、職人の育成にも長い年月がかかります。「次世代に会津漆器のモノづくりを伝えていく必要があると感じたんですね。そのため起爆剤として、自分たちができることはなんなのか。その結果誕生したのが、会津漆器に携わる有志のコーポレートによる新しいムーブメント。『プロダクトデザインのつくり方で、メッセージを伝える工芸を完成させ、ジャパンブランドとして世界に発信していこう』。もちろん、製品完成までには、長く困難な試行錯誤が待っていました。『プロダクトデザイナーも、漆器の魅力を最大限に引き出しながら、私たちの理想を形にしてくれる人と



して数人に絞り、ヨーロッパでも評価されている塚本カナエさんをお願いしました。その後もファッション界でも注目を集めるSOMADESIGNなど、旬のデザイナーを起用し、会津塗に新たな生命を吹き込むチャレンジを続けています。個別の注文に応じる〈BITOWA order〉など、贅沢なニーズに対応できるのも、歴史ある産地ならではの強み。「魅力的な製品を提案し続けたい、自分も〈BITOWA〉をつくりたい、という若い人材もきつと現れる」。チーム・ピトワの夢は、まだ始まったばかりです。」



伝統ある技を新しい美へ昇華

- ① 華やかに煌めく蒔絵。埃が立たないように、窓を閉め切って集中して作業する。
- ② シルクスクリーンで精緻なプリントを製品に転写。
- ③ 蒔絵師が金粉を蒔いていくと、奥深い輝きで製品に生命が吹き込まれていく。
- ④ TEAM BITOWAを立ち上げ、世界に発信する遠藤正商店代表の遠藤典宏さん。
- ⑤ 手描きからシルクスクリーンまで、巧みな技で蒔絵を施す会津塗伝統工芸士の本田充さんと、マツモト工芸代表の松本修さん。



004
Mirror

(ABS樹脂・ウレタンまたはカシュー塗装)
(黒)……………[税込]3,360円
(赤・白)……………[税込]3,675円



005
Jewelry Box

(エリア樹脂・ウレタンまたはカシュー塗装、内張付)
(黒)……………[税込]3,780円
(赤・白)……………[税込]3,990円



006
Plate Square

(フェノール樹脂・ウレタンまたはカシュー塗装)
(黒)……………[税込]2,100円
(赤・白)……………[税込]2,415円

